

道博協ニュース

発行 平成5年9月15日
発行所 北海道博物館協会
事務局 札幌市厚別区厚別町小野幌
北海道開拓記念館内
電話 011-898-0456
FAX 011-898-2657

第44号

第三十二回道博協大会 盛會裡に終る

平成五年度の北海道博物館大会は、去る七月七日、八日の両日、滝川市において開催されました。今年度の大会テーマは「開かれた博物館づくりをめざして」であり、市内に特色のある各種博物館づくりをめざしている滝川市での開催でありまた全道の交通の要所ということもあって、道内の博物館・園の職員ならびに関係者が約百五十名が参加する過去最大級の大会でした。

第一日目は、開会式後総会が開かれ、平成四年度事業報告、決算及び監査報告がなされ、続いて平成五年度事業計画案及び予算案なども原案どおり可決されました。

今大会は、二年に一度の役員改選期でありましたが、前改選時に比較的大きく顔ぶれが変わったため、今回は学芸職員部会の要望や館園等の都合による辞退からの補充など小幅なものとなりました。詳細は後記のとおりです。

今回の大会は旭川市において開催されることになり、また本年十月、第四十一回の日博協全国大会の共催も正式に決議され、全面的に協力することとなりました。

役員改選や日博協大会の件など議題が多かったため、日博協毛利正夫専務理事の特別報告を午後にもまわし、写真撮影のあと休憩に入りました。

午後は、前国立科学博物館長で、現在、教職員生涯福祉財団理事長を務める諸澤正道氏に「開かれた博物館づくり」と題して、つい先ごろまで百年をこえる国立科学博物館で改革の先導役を務めた同氏ならではの実践に裏打ちされた講演でした。

とめをお願いし、上士幌町東大雪博物館の川辺百樹氏は「自然史博物館における試み」を、また夕張市美術館の上木和正氏に「過疎化率日本一のマチの美術館」、根室市博物館開設準備室の川上淳氏には「根室市博物館開設準備室の人文系学習活動」について、各々の体験をまじえて報告されました。事前に発表資料を寄せられた徳別町立博物館の地徳力氏が急病で参加できなかったのは残念でした。これらの詳細は、現在、大会報告書の編集作業をすすめているので、それに譲ります。

午後六時半から開催された懇親会は滝川市きつての由緒あるホテルを会場に、市長をはじめ要職の方々も参列いた

ついで、最新データを駆使して国内博物館界の動向を紹介。シンポジウムは、今回、学芸職員部会の全面的な協力をいただいで「開かれた博物館づくりをめざして」というテーマのもとに、小樽市博物館の土屋周三氏に可会ととりま

て全国的にもユニークな美術館自然史館などを見学し、滝川市の誇る博物館を核にした街づくりを、心ゆくまでに堪能した一日でした。

(事務局長 野村 宗)



道博協大会に参加して

大会二日目、川の博物館を見学していたとき、野村崇事務局長からこの記事を書くように依頼されました。その時は「私でよければ」と調子のよい言葉で引き受けましたがいざ書こうとすると何を書いたらよいか悩んでしまいました。そこで、取りあえず今大会に参加して感じたことを思いつくままに書いてみようと思います。

今年の四月に上ノ国町の学芸員になって初めての出張で、大会に出席するのも勿論これが初めてでした。会場の三浦華園に入ると既に何人かロビーで受付の開始を待っていました。挨拶をしようかどうか、しかし片っ端から挨拶をするにしてもそれほど名刺を持っていないし、もし一般の宿泊客だったら：：など今となってはみれば何を馬鹿なことと考えていたのだろうと思ふほど緊張していたようです。



シンポジウム

上ノ国町では五年後の平成十年度オープンを目指して歴史博物館建設構想を現在進行しています。博物館をこれから作るうえで何をすべきか、物館の乱立に伴う来館者の食い合い―現象については、耳のいたい話でしたが：：。シンポジウムでは、市立・町立の博物館で行っている活動の話に興味深く聞かせていただきました。詳細は省きますが、発表された三氏の見解は、開かれた博物館は多くの人に利用され支えられている博物館という事で共通していたと思います。そしてそのために行う普及活動の大切さを再認識させられました。

その意味で毛利正夫氏の講演は、ハロゲン化合物の消火剤が生産中止になるという話など、これから博物館を作っていくうえで色々と参考になる情報を聞かせていただきました。最初に話された地方博物館の乱立に伴う来館者の食い合い―現象については、耳のいたい話でしたが：：。シンポジウムでは、市立・町立の博物館で行っている活動の話に興味深く聞かせていただきました。詳細は省きますが、発表された三氏の見解は、開かれた博物館は多くの人に利用され支えられている博物館という事で共通していたと思います。そしてそのために行う普及活動の大切さを再認識させられました。

その点、諸澤正道氏が、講演で開かれた博物館を作る要素の第一に展示を挙げられたのは意外でした。私のイメージでは、開かれた博物館は普及活動などを活発に行う博物館という構造が頭にあつて、展示についてはあまり気に止めていませんでした。しかし、

来館者の多くは展示を見学するだけだろうし、博物館の活動に参加する人のほとんどもまずは展示を見学する。とすると博物館活動参加の入り口としての展示の役割は無視できないのではないかと。展示と普及活動を別々にしていた考えを改めなければならぬと思いました。そして展示を通して博物館に興味をもってもらい、その後博物館の活動に参加してもらうことで見学者の意識を「博物館を見学する」から「博物館を利用する」に変えていく、これが開かれた博物館の理想的な形ではないかと、自分なりに感じました。

さて最後になりましたが、

今年大会の全体的な印象について触れたいと思います。会場を見渡して、そして当日いただいた参加者名簿をみて感じましたが、博物館関係者以外の参加者がほとんどいなかったのが、残念でした。博物館協会の大会だからそれが当たり前なのかも知れませんが、テーマが「開かれた博物館づくり」ということで、博物館関係者以外の人の意見があってもよかったのではないのでしょうか。開かれた博物館：：一般の人は勿論、行政（川上淳氏もシンポジウムで指摘されています）・大学などの研究機関等さまざまな方面に開かれていなければならぬと思います。そのような意味で、たとえば博物館友の会で活動している会員さん達の話や、行政サイドからの要望、研究機関が博物館所蔵の資料を利用する際の問題点など、外からの声を是非聞いてみたかったと思います。

今回は「博物館大会に初めて参加して」というテーマで自由に書いてもよいということだったので、何もわからない新人という強みでずいぶん勝手なことを書いてしまいました。まだまだ考えの甘い点が多々あると思いますが、諸先輩方には色々とお教示されるようよろしくお願いいたします。

（上ノ国町教育委員会 学芸員 佐藤 一志）

江別市郷土資料館友の会の活動

江別市郷土資料館友の会は資料館の開館と同時に平成三年八月に発足した。

江別は市でありながら民間博物館をもつていなかった。公民館の二階、狭苦しい部屋に土器や石器の棚がひっそりと立っていて、人はめったに訪れなかった。

その土器たちは、知る人ぞ知る、坊主山遺蹟を中心とする続縄文期の貴重な資料だったのだが、市民の多くはそれほど大切なものとの認識を持っていなかったし、存在すら知らなかっただろう。

かといって、歴史に対して無関心だったわけではない。名にしおう屯田の町。文化財保護委員会の設立は、道内でも早いほうだったと思う。また、昭和初期の郷土史ブームと札幌郷土史家たちの北海道式古墳調査が刺激になって、新館長次氏等を中心とする江別郷土研究会が発足して、戦後まで続いていた。

しかし、あまりにも、屯田兵のイメージが強すぎ、また屯田兵そのものが現存するかと錯覚するほどに、今に影響

しているのが、歴史を客観的に見るにいたらなかったのか、郷土博物館を進行して久しいのに、なかなか日の目を見なかった。

平成二年になってやっと企画がはじまり、すは、博物館かと思つたが、残念ながら郷土資料館という規模で落ち着いてしまった。

その古い公民館を改造して屯田記念館を併用し、壁や屋根を作り直して今日の郷土資料館が出来上がったのだが、手放しでは喜ばなかった。

それでも、設立当初から学芸員が館長になり、学芸員が運営にあたっているから、当分はよしとしなければならぬだろう。

さっそく作られた友の会は今までの友の会のように、会員が資料館を利用するのに、

一般市民より有利というものはなく資料館がより広く市民に活用されるよう、お手伝いをする組織にしようと考えたのだが、結局、資料館が行う行事に便乗して、講演を聞いたり、遺蹟の体験発掘

をしたりと、自分たちが楽しむ事ばかりで推移してきた。この前も、バスを一台借り切つて、余市の遺蹟発掘現場を見に行き、中世からの遺物

に見惚れ、水産博物館や運上家にかつての余市の賑わいを楽しんできた。

会員の親睦と個人の学習には大いに有益であつたし、天気もよくて海も美しかった。

今、会員の数は一五〇人ばかり。女性が多く年齢層は高い。いわゆる、歴史に興味のある人ばかりなので、このままでも、けっこう賑やかにや

つてはいけるだろう。だが、それでいいのかと思

た。たとえば、現在進行している「陶芸の里」プロジェクトをどれだけ知っているか。それに、郷土資料館がどれほど関与しているか。また、現在の郷土教育はいかに行われているか。一般市民の資料館利用度はどのくらいか。資料の

収集状況はなどなど。つまり、資料館が郷土学習の中核となつて動いているかどうかを、友の会の会員はほと

んど知らない。もちろん、知らなければいけないといっているわけではない。理想の友の会とはこれらに熟知し、その中でいくらかでも自分の力を提供できるような組織であろうと思つて

いるだけだ。どんな場合でも市民が力を

持つと、行政はやりやすい。博物館もそうで、わけのわからない力の及ぼし方は、かえつて博物館の主体性を損うものだから、これでは、学芸員がたまらない。

会員の自主性と博物館の独立性、学芸員の研究の自由をそれぞれが尊重し合つて、なお、やはり市民のために存在する施設として扱い、育てる。会員と資料館の、こんな関係が私の夢だ。



講演会



見学会

江別市郷土資料館友の会は、いつの日か、資料館が市民の生涯学習の場として有効に活用できる施設に育つていくことに、力を貸すべきだと思つている。

(江別市郷土資料館友の会
会長 中村 齋)

北海道博物館略史 (13)

(7) 釧路市立郷土博物館の
開設

昭和十一年には、北見郷土館と共に釧路市立郷土博物館が開設された。

館開設運動の中心となった

のは片岡新助で、彼は阿寒国立公園の鳥獣、魚類、昆虫、植物のほか、郷土の考古資料や産業資料を収集・陳列し、教育・研究資料として活用することが大切であると考え、昭和九年、釧路博物館設立運動をはじめた。市内の有力者、市議会の賛同を得て、当時幣舞の高台にあった市役所庁舎隣の元水道建設事務所二階(七〇坪)が充当されることになった(一階は市立簡易図書館)。また、経費は師範学校誘致基金の中から二千五百円を博物館の新設と図書館の移転費に充てることになった。

開館式は昭和十一年七月に
行われ、十月には朝香宮が
訪問された。

開館当初は図書館主事の佐

昭和初期には道内各地に郷

の建設計画

(8)「北海道郷土博物館」

土研究会が結成され、さまざま活動を展開したが、中でも札幌の犀川会は考古資料を紹介する「北海道先史時代遺物展覧会」や「北海道原始文化展覧会」を開催し、中心的な役割を果たしていた。

また、道庁も九年一月「史蹟名勝天然記念物保存顕彰規程」を定めた。当時の道庁長官は北海道の歴史に関心を持っていた二一代の佐上信一で、関係者の熱心な働きかけもあって、昭和九年札幌に片立の「北海道郷土博物館」を建設する計画が持ち上がった。

「東京日日新聞」北海道樺太版の九月二十六日付記事によると、設立の目的は「貴重な本道の考古学的研究資料参考品等が活動を開始した各地方郷土研究会もしくは郷土記念館に統々集められていくので、これ等の散逸を防ぎ、一ヶ所にまとめて北海道地史、風俗史等の代表的研究資料」とすることにあり、「総合的な博物館のなかつたことは寧ろ当局の認識不足といわれ

ている折柄なので各方面から

期待されている」と記している。

この構想はその後進展し、昭和十年九月頃には、工費三〇万円を投じ、三階建七〇〇坪の北海道博物館を北大植物園内に建設する目どがつき、基準設計をするに至った。

「北海タイムス」十年九月二十二日付記事は、この件について次のように報じている。

第二拓計問題と共に本道

開拓再認識の声が高まり、

それにつれて本道文化推移

の経過を識る科学的な大規

模の「北海道博物館」の建

設が識者間に提唱され、現

在各方面に分散的に蒐集陳

列されている本道開拓に関

する資料、文献を始め、先

住アイヌ民族の土俗品、本

道の動植物標本、農業に関

する農具改良の変遷等を一

堂に陳列する同博物館の建

設は、最近着々と計画が進

められ、(略)建設期、其

他まだ確定していないが、

道庁・北大これに民間の三

者協力の上で成立する模様

で、明年あたり実現する氣

運が動いている。

しかし、この計画はこれ以上進展せず、実現するには至らなかった。

この後、戦時体制の強化にともない、北海道の博物館活動も全般的に停滞期に入った。再びその活動が開始されるのは昭和二十年代で、活況を示すのは昭和四十年代以降のことである。

(主な参考文献)

- 『釧路市立博物館五〇年史』(平成三年、片岡新助「釧路市郷土博物館」(『博物館研究』十五卷三号、昭和十七年三月)、「郷土博物館の特色」(『博物館研究』十六卷四号、昭和十八年四月、北海タイムス記事転載)、「東京日日新聞」(昭和九年九月二十六日)、「北海タイムス」(昭和十年九月二十二日)

(北海道開拓記念館

学芸部長 関 秀志)

館 園 紹 介

黒松内町ブナセンター

ブナ自生北限の地として知られる黒松内町は、後志管内の南端に位置し、札幌と函館のほぼ中間にあたります。

地勢は高山や平野は少なく、なだらかな丘陵地であり、豊かな森林地帯となっています。

黒松内町は、北限のブナ原生林である歌才ブナ林をシンボルとした「ブナ北限の里づくり構想」を理念としたまちづくりを現在進めています。

この構想は、北限のブナ原生林と自然、牧歌的な酪農風



黒松内町ブナセンター

景、農村ならではの生活や文化を町の資源・魅力と考え、総合的に活用しながら地域を元気にしていこうというものです。

こうした自然体験型の交流をめぐす同構想の中核的な施設が平成五年六月にオープンしたブナセンターです。

館内にはブナや本町の歴史の資料を展示しているブナホール、木工や陶芸、食品加工できる工房、自然や環境、科学、農業関係の書籍を備えた図書室があります。

ブナホールには、ブナを植物、動物、文化、自然保護、そして北限の謎など様々な方向からわかりやすく紹介しています。



ブナホール

子供達にも森のしくみを知ってもらうため、リフレックス映像を使った大型テレビや、ブナ林にいる鳥の名前当てゲームがあり、人気を集めています。

歌才ブナ林が昭和三年、国の天然記念物として指定されることに尽力された北海道林学の父である新島博士のコーナーも設置しています。

また、歴史を紹介するコーナーでは、黒松内低地帯の成り立ち、瀬棚層から産出された貝化石、旧石器時代の道具、開拓時代の生活の様子を伝える資料が展示されています。

本町にある資源を利用して創作体験してみたい方には木工房、陶芸房、食工場の三



ブナホール（郷土史コーナー）

つの工房があります。

今までは、コースターやペン立てづくり、手づくり豆腐やアイスクリームづくり、雑草クッキングなどを楽しませました。

二階の森の図書室には、ブナや植物など自然に関する一般書籍や専門書、雑誌のほか、ビデオやレーザーディスクの視聴覚コーナーも設け、休日には子供達でいっぱいになっています。

ブナセンターでは館内の施設を利用するほかに、ブナ林観察会や自然の中で遊ぶゲームなども実施しています。

植物などの名前が分からない人達にでも野外活動の面白さを知ってもらうため、知識より五感を使うことを大切に考えています。

これからもブナセンターは、地域に住む人達の生涯学習の場であり、地域資源を生かした体験型の都市との交流施設として、アソビながら学習できる親しみやすい施設づくりを目指しています。

《ブナセンターの御案内》

開館時間 午前九時三〇分～

午後五時（工房・会議研修室は毎週木曜・土曜日は午後九時まで）

休館日 毎週月曜・火曜日

末年始（十二月二十八日～一月六日）

資料整理日（三月一日～五日、十月一日～五日）

入館料（ブナホール）

個人 高校・一般一五〇円
小・中学生一〇〇円

団体（十人以上）
高校・一般一〇〇円
小・中学生 五〇円

※各工房及び工房機器使用料は別途いただきます。

交通

JR函館本線黒松内駅から車で一〇分。車で札幌から二時間四〇分、小樽から二時間、函館から二時間。

問い合わせ先

〒〇四八〇一 一寿郡黒松

内町字黒松内五二番地一

電話〇一三六七二一四四

一 FAX二一四四四〇

館園紹介

神田日勝記念館

神田日勝は、昭和十二年東京練馬に生まれ、戦時疎開で十勝鹿追町に移住し、開拓農業のかたわら油彩画の制作活動を続けた。全道展の会員であり、独立美術選抜展・第一回北海道秀作美術展などに出品。昭和四五年三二歳で急逝した。没後『室内風景』が北海道立近代美術館に收藏され、東京・鹿追での遺作展、さらに東京・札幌・帯広での「神田日勝の世界」展、そして昨年の札幌・下関での「日本のリアリズム」展を経て、日本のリアリズムの一時期を代表する画家として評価が高まっている。

神田日勝の記念館建設の声は、昭和五二年の青年文化集団「らんぶ」による文芸誌別冊『神田日勝』を契機とした翌五三年帯広に巡回した「神田日勝の世界」展をうけて「神田日勝記念館」が「ランブ」同人によって組織され、日勝の画業の声価の高まりと



神田日勝記念館全景



展示場内

ともに記念館建設の運動が徐々に進行していった。五九年「鹿追町文化連盟有志と記念会」で「記念館建設準備会」を結成、さらに同年十一月には「記念館建設実行委員会」に発表、会報の発行、建設要望の提出など、住民運動としての活動が整っていった。そして「募金運動による日勝の代表作」という形に結実した。もちろ

（神田日勝記念館学芸員 菅 訓章）

ろん、個人の名を冠した記念館が必要かどうか、遺作を購入することへの是非、さらにそれが町の振興や観光にとつて益になるか等、議論が続いた。平成二年、町長の決断の下、「ふるさと創成資金」の半額を財源として遺作の購入にあてることを決定、年輪の村構想の一環として「町民ホール（陶芸工作館が付属）」「トリムセンター」と並ぶ中核施設として「神田日勝記念館」を自治省の「リーディングプロジェクト事業」に組み込み建設計画が具体化した。

《神田日勝記念館案内》
開館時間
午前十時～午後五時
（展示室への入場は午後四時三十分まで）

「画室C」の購入と町への寄贈という形に結実した。もちろ

休館日
月曜日、祝・祭日、年末年始、展示替等による臨時休館日

「画室C」の購入と町への寄贈という形に結実した。もちろ

観覧料
一 一般 五〇〇円
二 高校 生 三〇〇円
三 小・中学生 二〇〇円
※団体料金は十名以上で一人五〇円割引

「画室C」の購入と町への寄贈という形に結実した。もちろ

交通
東京—帯広空港（二時間半）
大阪—帯広空港（二時間）
バス—帯広駅前バスターミナルより鹿追・然別湖行き（約五十分）
神田日勝記念館前下車
問い合わせ先
神田日勝記念館
〒〇八一—〇二鹿追町東町三丁目二
TEL・〇一五六六—六一五五

「画室C」の購入と町への寄贈という形に結実した。もちろ

展示場内

「画室C」の購入と町への寄贈という形に結実した。もちろ

展示場内

「画室C」の購入と町への寄贈という形に結実した。もちろ

展示場内

「画室C」の購入と町への寄贈という形に結実した。もちろ

展示場内

「画室C」の購入と町への寄贈という形に結実した。もちろ

展示場内

「画室C」の購入と町への寄贈という形に結実した。もちろ

展示場内

「画室C」の購入と町への寄贈という形に結実した。もちろ

展示場内

「画室C」の購入と町への寄贈という形に結実した。もちろ

展示場内

「画室C」の購入と町への寄贈という形に結実した。もちろ

展示場内

「画室C」の購入と町への寄贈という形に結実した。もちろ

展示場内

館・園の主な行事 10月12月

● 小中学校理科研究発表会

● 室蘭市民俗資料館

11上旬「落葉焚き」12上旬「石うすのもちつき」12中旬「伝承和風の美展」

● 苫小牧市科学センター

10・17、31「風見鶏の制作」11・7、21「ヨーヨーの製作」12・5、19「凧の製作」10・9「パズル教室」11・13「ヘリコプターを作る」12・11「雪の結晶を観察する」

● 苫小牧市博物館

10「懐かしの音楽会」12・12「わら細工シリーズ」

● 広尾町海洋博物館

10「郷土民芸品製作学習」

● 類似郷土館

10「類似山道歩こう会」

● えりも町郷土資料館

10・10「親子エゾシカウォッチング」12・19「親子冬鳥ウォッチング」

● 真狩村羊蹄ふるさと館

10・9「デンブ製造工程」

● 札幌市青少年科学館

10・9、12・11「親子科学教室」10・11、11・3、12・23「みんなの楽しい実験広場」11・25、26「女性科学教室」

● 札幌市円山動物園

11・1、12・1「富山市との動物画交換展示」

● 北海道立近代美術館

10・30、12・19「ヴィクトル・ヴァザリ展」

● 札幌市豊平川サケ科学館

10、11月「採卵実習」「サリモンウォッチング」「もの知りサケ教室」

● 北海道開拓記念館

10・6、11・3、11・13、12・12「新収蔵資料アイヌ絵画」10・17「アイヌ民族の課題」11・3「アイヌ民族の歩んだ道」11・14「環北太平洋の言語」11・26「もちつき」

● 北海道開拓の村

10・10、31「児童絵画展」11・2、28「北海道に見る近代建築」10月土日祝「ポックリ」11月土日祝「やじろべえ」11・7「ぞうり」11・21「わらじ」12月土日祝「コマ」12・10月下旬「フィルムアートへの招待」

● 北海道立旭川美術館

10・17、24「親子で作る木の工作室」11・2、3「科学の夢画コンクール」

● 旭川青少年科学館

10・17、24「親子で作る木の工作室」11・2、3「科学の夢画コンクール」

● 江別市郷土資料館

11・13「出土品を調べよう」

● 滝川市美術自然史館

10・1、3「滝川書道連盟展」10・7、11「生徒作品展」11・1、3「市民文化祭」12

● 写真道展

● 滝川市郷土館

11・13「和風をつくる」11・28、12・5「しめなわづくり」12・19「コリントゲームをつくろう」

● 夕張市美術館

10・20、24「市民文化祭」11・2、23「斎藤清版画展」

● 夕張市石炭博物館

11・15、12・29「写真展・夕張の風景」

● 美唄市郷土史料館

10・17「凧づくり」11・21「年賀状づくり」12・11「しめ縄づくり」

● 北海道立旭川美術館

10月下旬「フィルムアートへの招待」

● 旭川青少年科学館

10・17、24「親子で作る木の工作室」11・2、3「科学の夢画コンクール」

● 旭川市郷土資料館

10・16「秋空の天体観望会」11・13「せんべい焼」12・11「もちつき」

● 恵庭市郷土資料館

10・16「秋空の天体観望会」11・13「せんべい焼」12・11「もちつき」

● 室蘭市郷土資料館

11・13「盆栽展」11・23

● 室蘭市立博物館

10・8「文化講演会」12・5「しめ飾り作り講習会」

● 上富良野町郷土館

11・1、30「草木漢方標本展」

● 稚内市青少年科学館

11・6「天文現象観望会」

● 帯広百年記念館

10・16「レコードの歩み」10・24「帯広・昔を訪ねて」10・30「十勝の食文化」11・21「水鳥観察会」11・20、12・26「トリ・鳥・とり展」12・8、12「陶芸講座作品展」

● 北海道立帯広美術館

11・13、12・9「今日のアメリ力展」

● 神田日勝記念館

11・13、17「北海道立近代美術館所蔵秀作展」
● 釧路市立博物館
11・6、28「新館十年のあゆみ展」12・19、1・30「春取湖の昆虫写真展」10・3「まちなみ散歩」10・24「大地が語る釧路」10・17、11・21「探鳥会」12・26「もちつき」
● 釧路市青少年科学館
10・9、19「天文教室」
● 標津サーモン科学館

11 「サケの採卵受精体験」
 ●中標津町郷土館
 又民族博物館館長

11 「SPレコードコンサート」
 石炭博物館館長・今井信一
 (理事) 青木隆夫(夕張市)

●北海道立北方民族博物館
 10・17 「北方民族の染色について」
 11・2、14 「オホーツク文化調査最前線」
 12・2
 アイヌ文化の成立を考える
 12・19 「海獣狩猟文化について」

●網走市立美術館
 10・6、14 「子ども書道展」
 10・20、24 「子ども創作展」
 11・3、10 「市民美術展」

●斜里町立知床博物館
 10 「メノウ採集と石みがき」
 11 「化石のレプリカ作り」
 秋の星座を見る」
 12 「しめ縄づくり」
 「もちつき大会」

◇協会役員◇
 平成5年度総会(7月7日)
 選出
 (会長) 渡邊左武郎(北海道開拓記念館館長)

(副会長) 石川 浩(道立近代美術館副館長)・小笠原立男(釧路市立博物館館長)・基田良雄(市立旭川郷土博物館館長)・藤島勝美(アイ

又民族博物館館長)
 (理事) 青木隆夫(夕張市) 石炭博物館館長・今井信一(札幌市青少年科学館館長)・金盛典夫(斜里町立知床博物館館長)・木村 繁(市立函館博物館館長)・黒崎康雄(個) (浦河町郷土博物館協議会会長)・佐藤一夫(苫小牧市博物館館長)・佐藤 昇(帯広百年記念館館長)・佐藤順博(滝川市美術自然史博物館館長)・沢田静憲(江差町郷土資料館館長)・杉浦重信(学) (富良野市郷土館係長)・関 秀志(北海道開拓記念館学芸部長)・地徳 力(学) (穂別町立博物館学芸員)・土屋周三(学) (小樽市博物館主任学芸員)・廣谷行厚(小樽市博物館館長)・保田信紀(大雪山国立公園層雲峡博物館館長)・森永修正(札幌市円山動物園園長)

(監事) 五十嵐国夫(利尻町立博物館館長)・及川壮一(北海道開拓の村専務理事) ※(学) 学芸職員部会・(個) 個人会員選出理事

◎平成5年度学芸職員部会 研修会◎
 10月1日(金)～2日(土)の2日間、江別市野幌公民館で、新しい博物館のディスプレイを考える」をテーマに開催されます。

◎平成5年度北海道博物館 活動交流推進会議◎
 北海道開拓記念館他との共催で次の日程で開催されます。全道ブロック館長等会議：11月11(木)～12(金) 名寄市 グランドホテル

作所一札幌市 事務所日誌
 8・1(日) 学芸職員部会事務局、8月より富良野市郷土館から俱知安町教委(矢吹俊男文化財保護係長)に移動
 8・6(金) 事務局打合せ
 8・12(木) 『学芸職員部会二ユース』No.41收受
 8・12(木) 道教委、滝川市に大会決算書提出
 8・17(火) 5年度日博協顕彰候補者申請書(3名分)を日博協会長宛て送付
 8・20(金) 全国博物館大会案内書類発送
 9・3(金) 道美術館学芸員研究協議会会報第5号收受
 9・10、11(金) 青少年科学館職員研修会(苫小牧市科学センター)

道東ブロック学芸員等会議：11月5(金)～6(土) 鹿追町 神田日勝記念館
 道南ブロック学芸員等会議：11月26(金)～27(土) 八雲町 八雲町郷土資料館
 道央ブロック学芸員等会議：12月3(金)～4(土) 小樽市 ニューみなと

◇新入会員◇
 (団体会員) 土の館―上富良野町、黒松内町プナセンター
 (賛助会員) 株式会社市村製、野村事務局長出席

8・10(日) 『道博協会報』No.33、『平成4年度道博協園等現況』、『第32回道博協大会資料』発送
 7・27(火) 教育施設開発機構創立10周年記念式典(札幌市、野村事務局長出席)

訂正◇
 『北海道博物館ガイド』(増改訂版、59頁)の訂正お願いについて
 昭和の森「森林の家」(江別市西野幌)の電話番号に誤りがありますので次のとおり訂正をお願いします。
 誤(011)38614376
 正(011)38414376

8・10(日) 『道博協会報』No.33、『平成4年度道博協園等現況』、『第32回道博協大会資料』発送
 7・27(火) 教育施設開発機構創立10周年記念式典(札幌市、野村事務局長出席)

8・10(日) 『道博協会報』No.33、『平成4年度道博協園等現況』、『第32回道博協大会資料』発送
 7・27(火) 教育施設開発機構創立10周年記念式典(札幌市、野村事務局長出席)

8・10(日) 『道博協会報』No.33、『平成4年度道博協園等現況』、『第32回道博協大会資料』発送
 7・27(火) 教育施設開発機構創立10周年記念式典(札幌市、野村事務局長出席)

8・10(日) 『道博協会報』No.33、『平成4年度道博協園等現況』、『第32回道博協大会資料』発送
 7・27(火) 教育施設開発機構創立10周年記念式典(札幌市、野村事務局長出席)

8・10(日) 『道博協会報』No.33、『平成4年度道博協園等現況』、『第32回道博協大会資料』発送
 7・27(火) 教育施設開発機構創立10周年記念式典(札幌市、野村事務局長出席)

8・10(日) 『道博協会報』No.33、『平成4年度道博協園等現況』、『第32回道博協大会資料』発送
 7・27(火) 教育施設開発機構創立10周年記念式典(札幌市、野村事務局長出席)